

令和7年度 徳島市国府中学校 総括評価表

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見	
<p>学力向上の授業に力を入れる。</p>	<p>基礎基本を重視するとともに、ICTを効果的に活用し、学力を向上させる。主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。</p>	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に積極的に参加している。(生徒アンケート) ○ 先生は、わかりやすい授業を行っている。(生徒アンケート) ○ 予習・復習・宿題など、計画的に学習に取り組んでいる。(生徒アンケート) 	<p>評価指標の達成</p> <p>A46%, B43%, C9%, D2% A44%, B46%, C7%, D3% A26%, B45%, C24%, D5%</p>	<p>〈自己評価結果について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関して、今年度も生徒90%・教職員100%の高評価を維持している現状は、素晴らしい。今後は、10%の低評価層への手立てをお願いしたい。 ・もっとICTを活用した授業づくりを、積極的に行う必要がある。 ・塾での学習時間を家庭学習の時間に含めると、数値が高くなると思われる。 ・家庭学習の充実のためには、保護者との連携が必要不可欠であるため、もっと教員からも、家庭学習の大切さを発信していくといい。 ・校内教育支援センターの設置は画期的である。不登校生への学習保障充実のためにも、保護者との連携を更に密にする必要があると思う。
		<p>○ めあての提示や板書・発問の工夫等を行っている。(教員アンケート)</p> <p>○ 教材研究や授業研究など資質向上に努めている。(教員アンケート)</p> <p>○ 読書の大切さを伝え、読書に親しむような指導を心がけている。(教員アンケート)</p>	<p>総合所見</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>授業をわかりやすいと感じている割合が90%近くあることは、高評価に値することは、高評価に値する。今後は、学び方への認識を、教員・生徒共にブラッシュアップすることが必要不可欠である。</p>	
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の授業準備を行ったのち休憩に入り、3分前着席に取り組む。 ・ 教科間での教材の共有や、相互参観週間での意見交換を行う。 ・ 家庭学習の指導をしたり、学年だよりや面談で呼びかけたりする。 	<p>活動計画の実施状況</p> <p>授業規律・家庭学習の大切さを、全教員が生徒に日常的に指導をした。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び方を工夫し、定着度合いを振り返りシートやテストで計る。 ・ 授業のなかで、自分の考えを述べさせる発問の工夫を行う。 ・ 授業のなかで、自分の考えを記述させ学びを整理し、明確にする。 ・ 図書委員会の活動推進やビブリオバトル等を行い読書推進を行う。 	<p>発問の工夫を行った。教科部会で、記述式問題の工夫・改善を行った。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを効果的に活用する授業実践を行い、教員間で共有する。 ・ 相互参観週間を通して、教科や学年の壁を越え、学びの体制を整える。 ・ 家庭学習の仕方を指導し、三者面談などで家庭へ呼びかける。 	<p>校内研修を通して、評価やICT活用の実践を行い授業改善につなげた。</p>	
<p>人権意識の向上を図るとともに、キャリア形成に努める。</p>	<p>互いの人権を尊重し、人権感覚を養い、社会形成者として自己実現ができる力を育む。</p>	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業や学校生活で、生徒の実態や課題に即した人権教育を行っている。(教員アンケート) ○ 生徒への声かけや観察等を通して情報収集を行い、生徒理解に努めている。(教員アンケート) ○ いじめの早期発見に心がけ、いじめを許さない環境づくりに努めている。(教員アンケート) ○ 担当学級の生徒の特性を把握するように努めている。(教員アンケート) ○ 友だちや周りの生徒に傷つくような言葉をかけたり、いじわるをしていない。(生徒アンケート) ○ 自分を大切にしている。(生徒アンケート) ○ 信頼できる友だちがいる。(生徒アンケート) 	<p>評価指標の達成度</p> <p>A23%, B77%, C0%, D0% A51%, B49%, C0%, D0% A62%, B38%, C0%, D0% A46%, B51%, C0%, D0% A56%, B36%, C5%, D3% A42%, B41%, C13%, D4% A76%, B18%, C4%, D2%</p>	<p>〈自己評価結果について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手の教員が、積極的に人権学習に取り組んでいる現状が、とても嬉しい。ブロック人権をきっかけとして、来年度はより一層、学校全体で人権学習に取り組んでほしい。 ・ 人権学習を行う上で、家庭でも、生徒と家族が話し合う機会を作っていくと、より効果的であると思う。 ・ 人権学習・キャリア学習の成果を問う質問を、学校評価アンケート(生徒)に入れていく必要がある。
		<p>○ 自分の進路について考えたり調べたり相談したりしている。(生徒アンケート)</p> <p>○ キャリア学習を行い、生徒自らが進路について考える機会を設定したり、進路相談したりして、自ら進学について考えさせるようにしている。(教員アンケート)</p>	<p>総合所見</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>学年単位ではあったが、系統的な指導を心がけた結果、若手教員の育成にもつながった。</p> <p>キャリア教育については、地域の力を活用することで、今年度も大きな成果を得ることができた。</p>	
			<p>A37%, B35%, C19%, D9% A31%, B64%, C5%, D0%</p>	
				<p>◆ ICTを活用した授業の実施状況が、わかりにくい。</p> <p>◆ 家庭学習の方法等を指導すると共に、家庭との連携が十分に図れていない。</p> <p>◆ 不登校生に対する手立てとして、ICTを活用した支援体制を構築したが、実用化しなかった。</p> <p>◇ 学校評価アンケート(教員)の項目に、ICT活用の有無等を入れる。</p> <p>◇ ICTを活用し、学習形態を工夫・自分の考えを述べる機会を増やすこと等で、根拠をもって他者に自分の考えを伝える生徒を育成していく。同時に、他者と合意形成できる生徒の育成も目指す。</p> <p>◇ 学習規律の徹底を継続し、学習環境の構築に努める。</p> <p>◇ 生徒には、学習計画と授業の振り返りをきちんとさせ、自分の学びを調整させていく。また、学習活動に対するフィードバックを明確・迅速に行い、生徒の自己改善につなげられる手立てを行う。</p> <p>◆ 人権学習・キャリア学習の成果を問う質問が、学校評価アンケート(生徒)にないので、検証できない。</p> <p>◇ 学校評価アンケート(生徒)に人権学習・いじめ・進路・キャリア学習の成果を問う質問を入れる。</p> <p>◇ 来年度のブロック人権をよい機会と捉え、もつち、人権侵害をしない、許さない(傍観者にならない)生徒の育成を継続していく。</p> <p>◇ 日常生活の中で、自分の考え方と違う多様な考え方があり、認め、周囲の人に対する思いやりがある行動や気遣いのできる生徒を育てていく。</p>

		活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・人権獲得の歴史や個人権課題を指導し、差別を解消する行動力を養う。 ・互いを認め合い、向上していくことのできる力を養う。 ・声かけやアンケート等を通して、生徒理解に努める。 	活動計画の実施状況 令和9年度徳東郡中学校人権教育研究大会に向けて、研究・実践を行った。クラスによっては、生徒への意識調査を行っていた。		<ul style="list-style-type: none"> ・社会の形成者として自己実現ができる力を育むためのキャリア学習・進路相談を、今後も継続してほしい。 	◇学校で行った人権学習の内容や生徒から出た意見を、保護者にも伝える機会を設定する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・職業調べを行ったり、様々な活動を通して自らの適性に合った進路を決定したりできるようキャリア学習を進める。 ・1人1人の生徒理解に努め、いじめの根絶等に向け、早期発見に努めるとともに、組織で適切な対応を行う。 	「地域の中で子どもは育つ」を共通理念として、今年も地元の企業と共にキャリアフェスを行った。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行っている人権の授業の内容や生徒の意見を、もっと保護者に発信していくことで、学校理解がすすむはず。 	
家庭・地域との連携強化に努める。	家庭・地域と連携した学校づくりの推進	評価指標 ○HPや各種通信を積極的に活用し情報発信を行っている。(保護者アンケート) ○PTA活動や地域との連携に努めている。(保護者アンケート)	評価指標の達成度 A28% , B50% , C19% , D3% A13% , B62% , C22% , D3%	総合所見 B (所見) 「マチコミ」から「すぐーる」への速やかな移行がなされた。 教科の学習の延長線として、地域の行事への参加を促したことにより、主体的に行動・参加する生徒の数が増えた。	〈自己評価結果について〉 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、校長先生の協力があつて、地域の行事にたくさんの生徒たちが参加してくれ、感謝している。その結果、地域行事が活気に満ちた。 ・「すぐーる」が活用されることで、先生方の働き方改革につながることは、大変よいことであると思う。 ・次年度は、生徒や保護者が、どれくらい地域行事に参加したか等のアンケート項目を、学校評価アンケート(生徒・保護者)に入れ、数値化した方が、検証しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域行事への積極的な広報活動が、保護者に対して十分に出来なかった。 ◇生徒が参加した地域行事の様子を、ホームページ等を上手く活用して情報発信してく。 ◇家庭に向けて配布する文書や便りの配信を、今後も「すぐーる」で行うと共に、アンケート機能等も積極的に活用していく。 ◇業務改善等を足がかりとして、全教職員が学校運営に参画している意識をもてる企画や手立てを構築していく。 ◇学校評価アンケート項目を追加する。
		○各種説明会や学校行事に参加しようとしている。(保護者アンケート)	A31% , B56% , C11% , D2%			
		○学校からのプリントやお便りを見るようにしている。(保護者アンケート)	A35% , B46% , C16% , D3%			
		活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを行う。 	活動計画の実施状況 学校からの情報発信を、HPや「マチコミ」「すぐーる」で行った。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事において保護者や地域の方々と連携体制を築くよう努める。 	コミュニティスクールの方々を中心に、行事等への協力・参加の機会が得られた。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式を考慮し、新たな視点で家庭・地域との連携を考える。 	学校からのお知らせ等はデータで保護者に送信する方法が、完全に定着できた。			

総合評価の基準 A できた B ほぼできた C あまりできなかった D できなかった

●課題 ◇改善策